

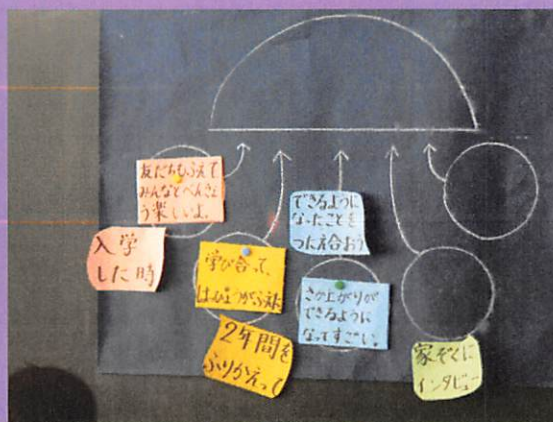
令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

研究紀要

令和3年度（2年次）

確かな学力を育てる

—「主体的・対話的で深い学び」の研究—



新座市立栄小学校

令和4年3月

令和3年度 校内研修の日程

令和3年	4月6日	研究推進委員会①	これまでの研究・今年度の研究の方向性について・研修計画・研究体制について
	4月9日	校内研修①	これまでの研究・今年度の研究の方向性について・研修計画・研究体制について
	4月12日	校内研修②	児童情報交換会【生徒指導部】
	4月22日	研究推進委員会②	研究組織・研修計画について
	5月17日	全体研修①	これまでの研究・今年度の研究の方向性について・研究計画・研究組織の決定
	5月27日	研究推進委員会③	研究の方向性について・安達先生に聞きたいこと
	5月31日	全体研修②	ChromeBook 伝達研修
	6月7日	校内研修③	心肺蘇生法研修【体育部】
	6月14日	全体研修③	タブレットを活用した授業について教材研究①
	6月24日	研究推進委員会④	教材研究の情報交換・第1回研究授業・協議会について
	6月28日	全体研修④	タブレットを活用した授業について教材研究②
	7月5日	研究推進委員会⑤	ブロック研修計画
	7月15日	全体研修⑤	ブロック研修準備（教科・授業者・先行授業・プレ授業等）
	7月19日	研究推進委員会⑥	夏季休業中の研修計画について
	7月21日	校内研修④	夏期休業中の研修計画確認・2学期の研究授業に向けて教材研究
	8月20日	全体研修⑥	ブロック研修・実践研修準備
	8月25日	校内研修⑤	ブロック研修・実践研修高学年/中学年
	8月26日	校内研修⑥	ブロック研修・実践研修低学年
	9月30日	研究推進委員会⑦	研究授業に向けて
	10月4日	全体研修⑦	第1回研究授業・協議会 高学年報告「オンライン授業の成果と課題」 指導者 十文字学園女子大学 安達 一寿 教授
10月18日	全体研修⑧	タブレットを活用した授業について教材研究⑤	
10月28日	研究推進委員会⑧	第2回研究授業に向けて	

	11月8日	全体研修⑨	タブレットを活用した授業について教材研究⑥
	11月16日	全体研修⑩	第2回研究授業・協議会 第4学年1組 体育科 授業者 戎子 正晃 指導者 十文字学園女子大学 安達 一寿 教授
	11月25日	校内研修⑦	書き初め実技研修
	11月30日	校内研修⑧	第1回ロイロノート実技研修会
	12月20日	校内研修⑨	不審者対応訓練
	12月22日	校内研修⑩	第2回ロイロノート実技研修会
	12月23日	研究推進委員会⑩	今後の研究計画について・第3回 授業研究について
令和4年	1月19日	校内研修⑪	第2回研究授業・協議会 第2学年1組 生活科 授業者 須田 桃 公開授業 第6学年2組 社会科 授業者 齋藤 敦子 指導者 十文字学園女子大学 安達 一寿 教授
	1月27日	研究推進委員会⑪	研究のまとめと次年度の研究の 方向性について
	2月7日	校内研修⑫	支援課訪問準備
	2月8日	教育支援課訪問(道・生・総・ 特・特支)	
	2月14日	全体研修⑪	児童情報交換会【生徒指導部】
	2月21日	全体研修⑫	パネル作成・研究集録作成
	2月24日	研究推進委員会⑫	今年度の成果と課題
	3月7日	全体研修⑬	研究集録丁合・製本・今年度の成 果と課題・次年度に向けて
	3月18日	研究推進委員会⑬	次年度の方向性について

研究の全体構想

- ・ 日本国憲法
- ・ 教育基本法
- ・ 学校教育法
- ・ 学習指導要領
- ・ 埼玉県及び新座市の指導の重点・努力点

学校教育目標

確かな学力を育て、豊かな人間性を培う

さわやかな子
かしこい子
えがおのある子

学校教育目標・具現化の視点
きたえる まなぶ ふれあう

児童の実態

校内研修、学校評価、各学力・学習状況調査等より

- ① 自分のために、または学びの意義を感じて学習に取り組むことができている。
- ② 国語の学力が伸びており、児童自身も学力向上を実感している。
- ③ 学力が二極化している。
- ④ 基本的な技能の定着が不十分である。

研究主題

確かな学力を育てる

— ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの研究 —

研究の仮説

ICT を活用することで、児童の主体性が引き出されたり、話し合いや意見整理に深まりが生まれたりして、確かな学力が育まれるだろう。

目指す児童像

- ◎ 主体的に問題に取り組める子
- ◎ 対話的に問題を解決し、深い学びを実感できる子

具体的なすがた

- 課題に進んで取り組む
- 友達と話し合い、新たな考えをもったり、考えを深めたりする

授業研究部

【研究の視点1】

(1) 主体的な学び

- ICT の効果的な活用による「学びたい」と思える学習課題の設定と子供たち自身が見通しをもてる学習

- 栄小学習スタイルの定着

(2) 対話的な学び

- 少人数グループ「かなえ（鼎）会議」の効果的な実施
- 対話のツールとしてのタブレット型PCの効果的な活用

(3) 深い学び

- 習得・活用・探究を意識した単元（題材）計画
- 質の高い「ふりかえり」の時間の確保

(4) 児童の意識調査及び実態調査の実施

- 年間2回実施し、分析・考察

環境整備部

【研究の視点2】

(1) 「主体的・対話的で深い学び」のための環境整備

- 栄スタイル学習カードの作成・活用
- 「かなえ（鼎）会議の行い方」の掲示

(2) 読書活動の充実

- 読書100冊・1万ページ達成者の表彰
- 図書を紹介・推薦する活動の充実

(3) 「読む力」を高めるための環境整備

- ベーシックタイムの計画的な実施
 - 5時間目の授業前10分間で、漢字や語彙・文法等、算数の知識及び技能の習得に重点を置き、指導計画に基づき年間90回以上実施
 - 4年生以上では、Qubenaを活用し、主要4教科の基礎・基本となる学力の定着を図る。

タブレット型PCを活用した授業研究の実践

令和3年度 研究経過

1 昨年度からの経過

令和2年度（研究1年目）

○主題の決定

「確かな学力を育てる～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究～」

○授業研究

1年生 算数「たしざんとひきざん」 Jamboardの機能を生かした課題解決学習

3年生 社会「人々のくらしのうつりかわり」 Jamboardによる意見整理

6年生 国語「今、私は、ぼくは（話す・聞く）」 動画撮影による振り返り

○ICT環境の整備

Chromebookを児童1人1台配備 各教室に保管庫設置 校内LAN増設



【今年度】令和3年度（研究2年目）

○研究仮説の改訂

「話し合いや意見整理に深まりが生まれたりして、確かな学力が育まれる」

○Formsによる各種アンケートの実施

○オンライン授業の実践

○Qubenaとロイロノートの活用

2 指導者

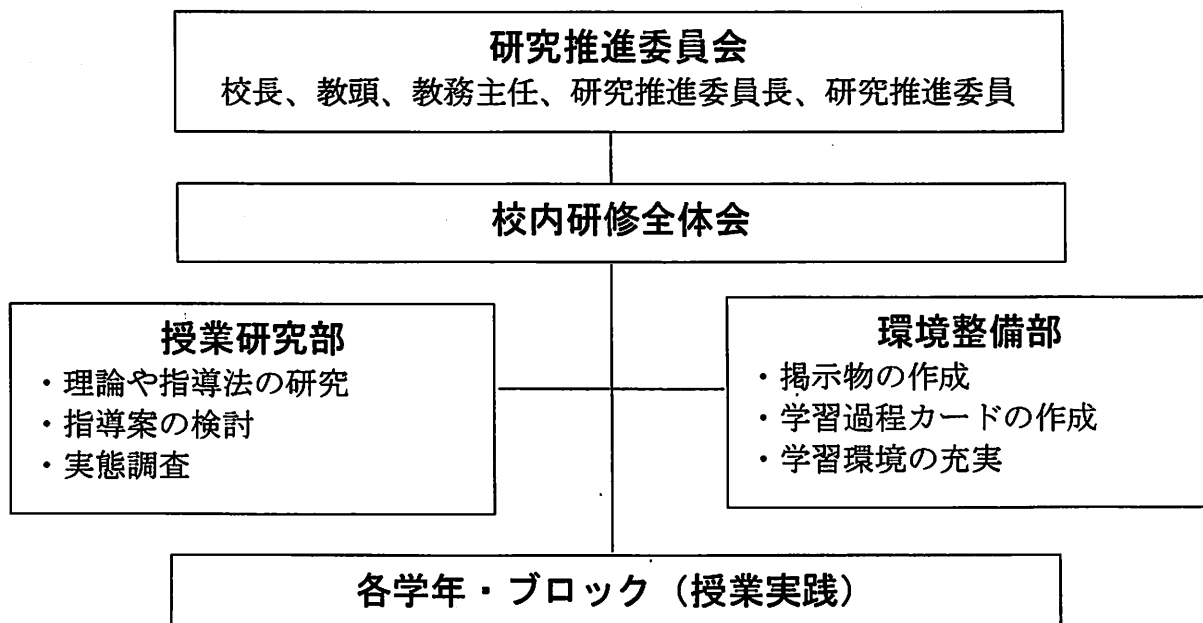
十文字学園女子大学 社会情報デザイン学部教授 安達 一寿 先生

令和3年10月 4日（月） 第1回授業研究会（講義） ※オンライン授業についての報告

令和3年11月16日（火） 第2回授業研究会（指導講評）

令和4年 1月19日（水） 第3回授業研究会（指導講評）

3 研究組織



学校におけるICTを活用した学習場面



図4-1 学校におけるICTを活用した学習場面

文部科学省「教育の情報化に関する手引き」より抜粋

- < ICTを効果的に活用した学習場面 >
- 一斉学習
 - A1 教師による教材の提示：電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示
 - 個別学習
 - B1 個に応じた学習：一人一人の習熟の程度などに応じた学習
 - B2 調査活動：インターネット等による調査
 - B3 思考を深める学習：シミュレーション等を用いた考えを深める学習
 - B4 表現・制作：マルチメディアによる表現・制作
 - B5 家庭学習：タブレットPC等の持ち帰りによる家庭学習
 - 協働学習
 - C1 発表や話し合い：考えや作品を提示・交換しての発表や話し合い

県立総合教育センター「ICT活用ガイド」より抜粋

児童対象の実態調査結果

1 調査概要

(1) 時期

第1回：令和3年7月 第2回：令和4年2月

(2) 調査内容

本校研究の「主体的・対話的で深い学び」「ICTの活用」をもとに立てた4点

①課題に進んで取り組んでいるか

②話をよく聞いて学習しているか

③学習の中で考えが変わったり、新しい考えを見つけたりすることができたか

④クロムブックを使った学習で、どのようなことができるようになったか

(3) 調査方法

各学級で GoogleForms によるアンケートを実施

(4) 集計方法

学級ごとの一覧表 (Excel データ) による

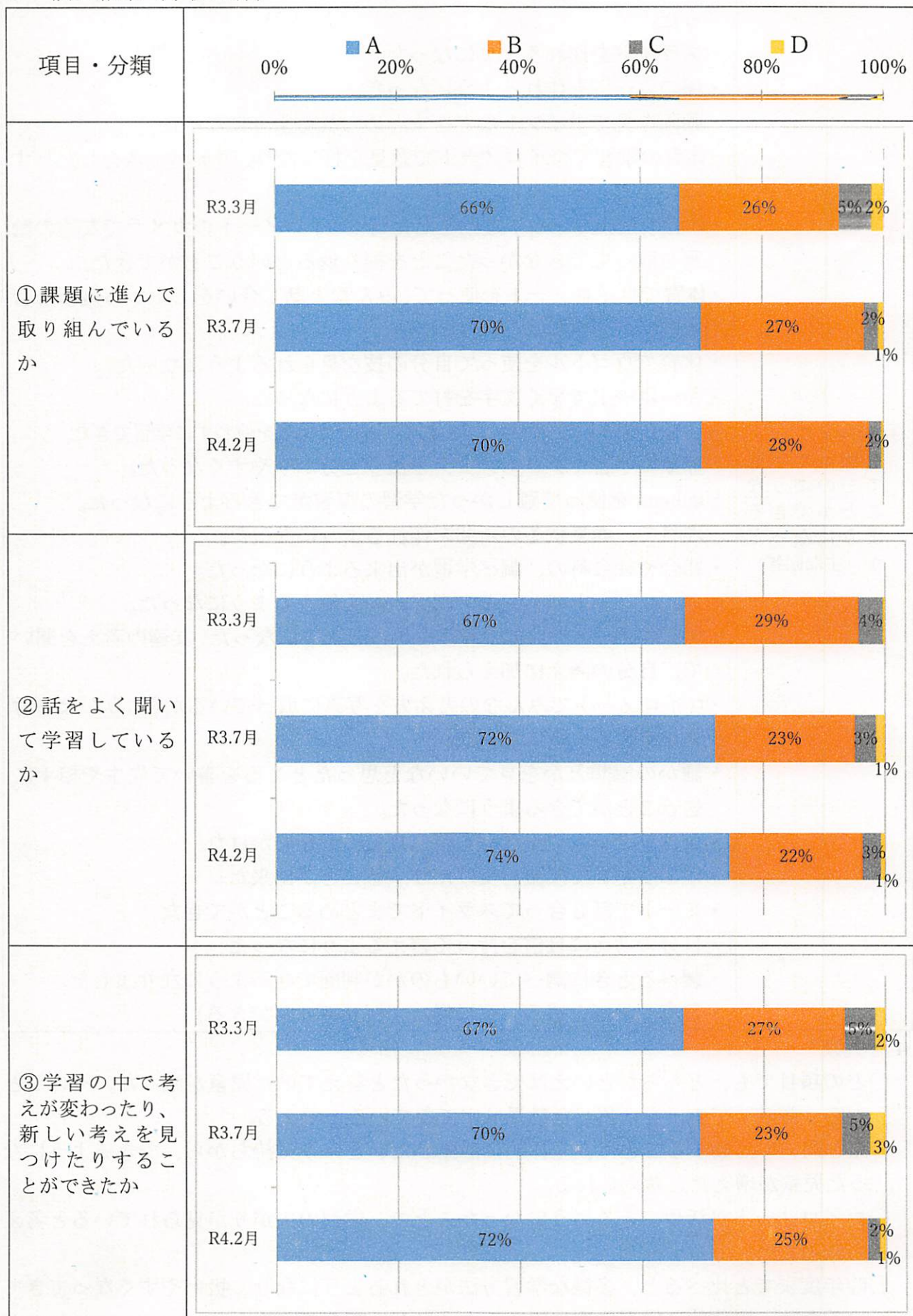
(5) 活用方法

統計から分析し、指導の際の参考資料として活用

2 調査の質問項目

項目・分類	低学年	中・高学年
①課題に進んで取り組んでいるか	せんせいが だしたかだいや じぶんたちで かんがえた かだいに すすんで とりくむことが できた。	先生が出した課題や自分たちで考えた課題に進んで取り組むことができた。
②話をよく聞いて学習しているか	ともだちの かんがえや せんせいの せつめいを よくきいて がくしゅうすることが できた。	友達の考えや先生の説明をよく聞いて学習することができた。
③学習の中で考えが変わったり、新しい考えを見つけたりすることができたか	じゅぎょうのなかで じぶんの かんがえが かわったり、あたらしいかんがえを みつけたりすることが できた。	授業の中で、自分の考えが変わったり、新しい考えを見つけたりすることができた。
④クロムブックを使った学習で、どのようなことができるようになったか	クロムブックをつかったがくしゅうでできるようなことをおしえてください。(いくつでもよいです)	クロムブックを使った学習でできるようなことを教えてください。(いくつでもよいです)

3 調査結果（学校全体）



<p>④クロムブックを使った学習でどのようなことができるようになったか(主な回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート、ジャムボードを使って図エアルバムを作れるようになった。 ・スライドを作れるようになった。 ・係のカードを作れるようになった。 ・動画を見てポイントなどをまとめられるようになった。 ・体育の学習でロイロノートで意見を打ったり、アドバイスをしたりすることができるようになった。 ・体育の授業でマット運動をした時、ロイロノートのカメラで友達の動画を取ってできなかったことを振り返ることができた。 ・体育でロイロノートを使って、みんなと話し合いをしたから側転と台上前転ができるようになった。 ・体育でウゴトルを使って自分の技を見られるようになった。 ・キーボードで早く文字を打てるようになった。 ・写真や資料を先生が渡してくれてロイロで鉛筆を使わずに学習できた。 ・算数の学習でクロムブックを使うと分かりやすくなった。 ・Qubena を使って難しかった学習の復習ができるようになった。 ・理科で、春夏秋冬の新聞を作れるようになった。 ・総合や社会科の、調べ学習が出来るようになった。 ・ロイロノートでシンキングツールを使えるようになった。 ・ロイロノートで自分の考えをかけるようになった。友達の考えを聞いて、自分の考えに加えられた。 ・ロイロノートでみんなの考え方を写真に取っているから、みんなの考えが深まるようになった。 ・誰かの感想とかを見ていいなと思ったところを書いて先生や相手に送ることができるようになった。 ・ロイロノートで生活科の時、自分の成長をかけた。 ・オンラインで授業を受けたりすることが出来た。 ・ミートで話し合っスライドでまとめることができた。 ・自分の考えに自信を持って言えるようになった ・調べるときに調べていいものかが判断できるようになりました。 ・写真や動画を撮る(家に帰って振り返りができる)
---	--

4 考察

- どの項目でも、どちらかといえばできなかったと答えていた児童が減った。そのことから、継続してICTを活用した効果は出てきていると言える。
- 話を聞いて活動することは、主体的に活動したいという気持ちから、できるようになった児童が増えたと考えられる。
- ロイロノートが活用できるようになったことで、学習の広がりが見られていると考えられる。
- 昨年度までと比べると、多様な学習方法がとれるようになり、扱いやすくなってきているため、主体的に学習に取り組めるようになってきている。

授業研究

低学年ブロック



日時 令和4年1月19日（水）5校時

授業 第2学年1組

生活「あしたへジャンプ 『自分と友だちのす
てきを大はっけん！』」

授業者 須田 桃 教諭

第2学年1組 生活科学習指導案

令和4年1月19日(水)第5校時
在籍児童数 27名
場所 第2学年1組教室
指導者 教諭 須田 桃

1 単元名 あしたへジャンプ「自分と友だちのすてきを大はっけん！」

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、国語でお互いの文章を読み合ったり、図工で友達の作品を鑑賞したり、算数ではかけ算九九でミニ先生となって九九を聞いてあげたり、普段から、互いの良さに気づき、認め合ったり励まし合ったりする姿が見られている。毎日の帰りの会の「今日のきりり」コーナーでも、友達のおかげで出来たことや、友達の素敵なところを発表して、クラスに広めている。2学期の後半に、「明日へジャンプ」の小単元「大きくなった自分のことをふりかえろう」で、給食当番などの準備や片付けが素早く出来るようになったこと、1年生をおもちゃ遊び大会に招待して喜んでもらえたこと、漢字を丁寧に練習していることや、鉄棒やマット遊びでは、友達と教え合ってできる技が増えたことなど、昨年度から成長したことをクラス全体や、個人で振り返る活動をした。

自分の役割が増えたことが分かり、少しずつ自分の成長を感じている様子も見られる。しかし、自分の良いところを問われると、悩んだり、「あまりない」と答えたりする児童も多い。友だちの良さは進んで見つけられるが、自分の良さや可能性に気付いている児童は少ないと感じている。

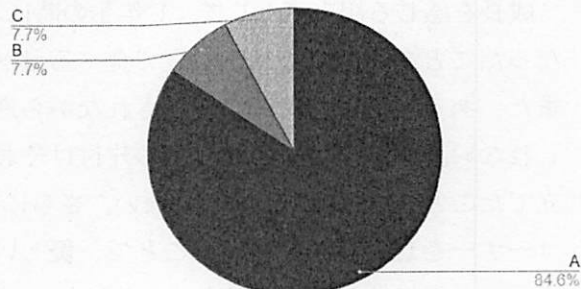
〈「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」校内アンケート(令和3年度7月実施)〉

A・あてはまる B・だいたいあてはまる C・あまりあてはまらない D・あてはまらない

①せんせいが だしたかだいや じぶんたちで かんがえたかだいに
すすんで とりくむことが できましたか。



②ともだちの かんがえや せんせいの せつめいを よくきいて
がくしゅうすることが できましたか。



③じゅぎょうのなかで、じぶんのかんがえが かわったり、あたらしい
かんがえを みつけたりすることが できましたか。

B
19.2%



A
80.8%

④クロムブックを使った学習のできるようになったこ
とを書きましょう。(抜粋)

- 写真を撮って、貼り付けること
- Meet の機能を使ったオンライン授業への参加
- Jamboard の機能を使った図工作品の鑑賞

⑤考察

クロムブックを使った学習は、楽しいと感じている児童が多く、国語や学活のカード作りなどで、ジャムボードで共同編集した際は、新しい考えに気づいたり、一緒にアイデアを出し合って作っていく楽しさを感じたりすることが出来ていた。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

1学期から互いの良さを認め合える雰囲気づくりをしてきたが、保護者からも、成長を認められて、褒められたり、友達とカードを渡し合ったりする活動などを通して、自分の良さを知って、自分と同じように、友達も大切に育てられ、成長していることに気付くとともに、どの児童も自信を持って意欲的に3年生に向かって生活できるようにすることを目指して、この単元を設定した。

過去の自分と現在の自分とを比較することで、自分自身の生活や成長を見つめ直し、振り返ることで、自分自身の成長や変容について考え、自分のよさや可能性に気付いていくことにつながることを期待できる。振り返る際の具体的な手掛かりとして、児童の共通の思い出として2年生の学校生活をクラス全員で振り返ることで、自分の成長を実感できるようにする。また、冬休み中に父母にインタビューしておき、chromebook のロイロノートに記録しておく。具体的な指導に当たっては、授業中や、町探検、運動会、音楽会、生活科見学などの行事への取り組み方などあらゆる場面において児童の成長を捉え、認めたり励ましたりしていく。家族へインタビューする際には、保護者に学習のねらいを踏まえた回答をしていただけるように依頼しておき、授業中にグループで共有する際には、事前に内容を確認してプライバシーの保護に留意するとともに、それぞれの家庭の事情、特に生育歴や家族構成などに十分配慮して行う。

(3) 児童の意識の流れ

成長を感じる出来事として、1年生の時に着ていた体操服が着られなくなったことから体が大きくなったことを実感したり、給食で食べる量が増えたことに気付いたりすることなどが考えられる。また、ある児童は、友達に応援されながら逆上がりが出来ようになったことを思い浮かべるかもしれない。あるいは、家で食事の片付けやお風呂掃除など、自分でできることが増え、家族の役に立てたことを思い出すかもしれない。さらに、1学期から続けている帰りの会での「今日のきらり」コーナーを思い浮かべさせることで、優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など内面的な成長へと、気付きの質を高めていきたい。1学期末に書いた日記を読み返したり、chromebook に記録している写真や作品を全員で共有したりしながら、友達や周囲の人の意見や感想によって自分の成長を見つめ直すことも取り入れていきたい。振り返るきっかけとなるものを広げながら、一人一人が自分の成長を多面的に振り返るとともに、成長した自分を実感し、支えてくれた人に対する感謝

の気持ちをもつとともに、成長の喜びを更なる成長を願う心につなげていくことで、目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的に関わるなど、意欲的に活動する姿になって現れてくるだろう。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる — ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—

②目指す児童像

ICTを使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICTを活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、話し合いや意見整理に深まりが生まれたりして、確かな学力が育まれるだろう。

(2) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

手立て1【ICTの活用】

- ① 家庭と学校を繋ぎ、自分の成長を多面的に振り返ることで、児童の主体性を高める。
- ② アプリケーションを用いた共同的な学びの実現をし、確かな学力を育む。
(ロイロノート)

手立て2【主体的な学び】※ロイロノートの活用

- ① 自分のことをもっと知りたいという思いをもち、家庭でインタビューをしてもらうことで、主体性を高める。
- ② 個人の振り返りや成長の記録を残しておくことで、「自分のことをまとめたい」という意欲を持たせる。

手立て3【対話的な学び】※ロイロノート・カードの活用

- ① グループで、家族にインタビューしたことを紹介し合う場を設け、互いの素敵なところや、自分自身の良さや可能性に気付かせる。
- ② 感謝する一文に加えて、それによって「自分が出来るようになったこと」なども添えられたカードを友達と渡し合う中で、優しさや思いやり、我慢する心などの自分自身の内面の成長にも気付かせる。

手立て4【深い学び】

- ① 互いの成長や良さを伝え合った喜びを全体で共有することで、支えてくれた人への感謝の気持ちや、更なる成長を願う気持ちへと、学びを深める。
- ② レイアウトを工夫した「ありがとうカード」や「すごいねカード」を数種類用意して、楽し

みながら友達好みも考えて相手のことを思って書けるようにする。

4 単元の目標

自分の生活や成長を振り返る活動を通して、過去と現在の自分を比べたり、支えてくれた人々との関係を見付けたりして、自分でできるようになったことや、役割が増えたことなどに気付くとともに、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの学習や生活への願いをもって意欲的に生活しようとするようにできるできるようにする。

5 単元の評価規準と小單元における具体的評価規準（12～3月 27時間）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準 「あしたへ ジャンプ」		自分の生活や成長を振り返る活動を通して、自分で出来るようになったことや役割が増えたことに気付いている。	自分の生活や成長を振り返る活動を通して、過去と現在の自分を比べたり、自分の成長を支えてくれた人々との関係を見付けたりしている。	自分の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの学習や生活への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
小單元 における 評価規準	① 大きく なった ことを ふり かえろ う	①自分でできるようになったことや大きくなったことに気付いている。	①過去と現在の自分を比較しながら、自分ができるようになったことや大きくなったことについて話している。	①これまでの表現作品や友達との話し合いを手掛かりに、自分の成長について振り返ろうとしている。
	② 大きく なった ことを しら べよう	②優しさや思いやり、我慢する心など、内面の成長に気付いている。	②自分で振り返ったことや、周囲の人から聞いたことをつなぎ合わせ、自分の成長について話したり書いたりしている。	②自分のことをもっと知りたいという思いを持ち、身近な人に聞いて調べようとしている。
	③ 自分 のこ とを まと めよう	③自分自身のよさや可能性に気付いている。	③自分の成長について気づいたことの中から、いちばん書きたいことを選び出し、作品に表している。	③自分の成長についてまとめたいという思いを持ち、適切な方法で作品をつくろうとしている。
	④ あり がと うの 気も ちを つた えよう	④自分はいくつの人々に支えられて生活し、成長していることに気付いている。	④周囲の人々の存在と自分の成長を関連付け、感謝の気持ちを話している。	④これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、3年生でも意欲的に生活しようとしている。

6. 指導と評価の計画（主に小単元2について）

小単元名	主な学習活動		
1 大きくなった自分のことをふりかえろう（3）	写真や動画、記録カードや表現作品などの手がかりをもとに2年間の成長を振り返る。		
<p>2 大きくなった自分のことをしらべよう（6）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【小単元の目標】</p> <p>自分のことをもっと知りたいという思いをもち、振り返ったことや調べたことをつなぎ合わせて、自分の成長について調べる中で、優しさや思いやり、我慢する心など、内面の成長に気づくことが出来るようにする。</p> </div>	<p>主な学習活動</p> <p>○家の人に自分の成長についてインタビューする。（3）</p> <p>○友達との関わりを振り返り、互いの素敵などところを見付け、カードに書いて渡し合う。（2） （本時2／2）</p> <p>○友達からもらったカードやインタビューなどを手がかりに、過去の自分と比較し、自分の成長について話し合う。（6）</p>	<p>小単元の評価 規準との関連</p> <p>態②</p> <p>態②</p> <p>知・技②</p> <p>思・判・表②</p>	<p>評価規準から想定した具体的な子供の姿 （評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のすてきなところを、友達に聞いて調べている。（行動観察） ・自分のことをもっと知りたいという願いをもち、保護者に自分の成長についてインタビューしたことをロイロノートにまとめている。（ロイロノート） ・友達から言われた、優しさや思いやり・我慢する心など、内面の成長について、友達と話し合っている。（発言） ・自分で見つけた成長と、保護者や友達からきいた成長のそれぞれのよさについて、グループで伝え合おうとしている。（発言・カード）
3 自分のことをまとめよう（5）	資料や材料を集め、方法を工夫しながら自分の成長をまとめ、つくった作品を友達と紹介し合う。		
4 ありがとうの気持ちを伝えよう（9）	招待したい人を決め、発表会の計画・準備をして、発表会を開く。		

7 本時の学習指導

(1) 目標

家族へのインタビューの紹介や相手のことを思ってカードを書いて渡し合う活動を通して、内面の成長に気付き、互いの成長を喜び合えるようにする。

(2) ICTを活用する学習場面

インタビューしたワークシートや思い出の品を記録しているロイロノートのスライドを紹介し合い、自分や友達の成長について話し合う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・さか上がりをあきらめないでがんばって、できるようになったねと、褒められて、2年生になって、がんばる力がついてきたんだなと思いました。 ・やさしいねって書いてもらえたので、友だちにへの思いやりの気持ちがふえてきたと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに、友達からもらった「すてき」カードを貼らせて、自分のふえてきた「すてきな気持ち」を自分で気付いて書けるようにする。 	
ふりかえる	<p>5 互いの良さを伝え合った喜びを全体で共有し、次時の活動への意欲を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分では気付かなかったけど、やさしい気持ちがあるんだなと思った。 ・できるようになるまで、努力するようになった。 ・勇気を出して、チャレンジするようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で共有したり話し合ったりしながら、良さを認め合い、「自分のことをまとめたい」という思いや願いを引き出し、次時の学習活動への見通しを持てるようにする。 ○もらったカードや、ワークシートは、写真に撮って記録しておく。 	7

(4) 板書計画

あしたへジャンプ

㊦ 自分や友だちには、どんな「すてき」がふえてきたか、☆がんばったね♡ありがとうカードに書いてつたえ合おう。

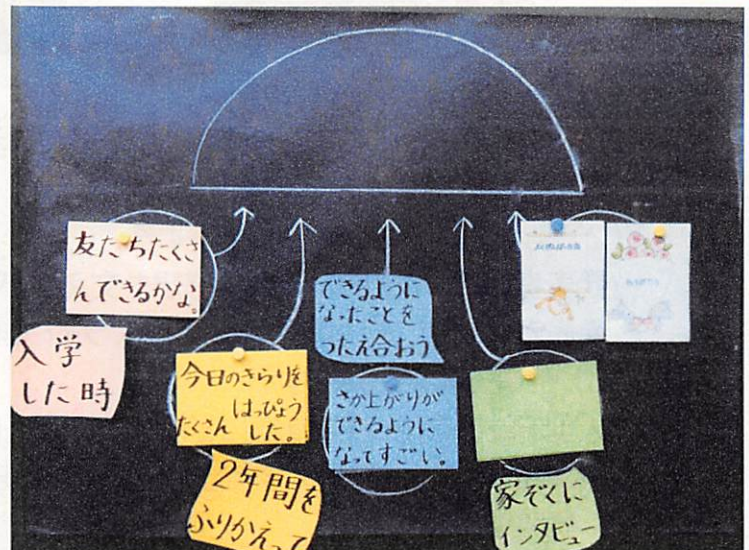
カードの書き方

- ・ありがとう+そのおかげでできるようになったこと
- ・がんばったね+思ったこと

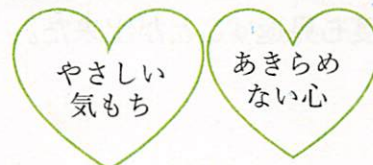
友だちから

♡あやとびを友だちにおしえてあげてやさしいね。
 ☆かけざん九九チャレンジをがんばっていてすごいね。

☆ずこうで楽しみながら絵をかいていて、みんなにもアドバイスしていてすごいね。



㊦ 自分にも友だちにもすてきな気持ちがいっぱいふえた。



ロイロノートを活用した主体的で深い学び

1 ロイロノート活用のねらい

主体性を高める……動画や写真での記録が簡単にできる利点を生かして、家庭に持ち帰り、自分の成長したことについて、家族にインタビューする活動を取り入れることで、児童の主体性を高める。

多面的に成長を振り返る……思考ツールの「くらげチャート」を使い、整理することで、友達や周りの人との関わりの中で、「たくさん成長してきたこと」「内面も成長してきたこと」に気づかせ、「自分の成長を作品にまとめたい」という思いを引き出す。

対話的な学び……3人グループで、家族にインタビューした動画等を紹介し合う場を設け、互いの素敵なおとこや、自分自身の良さや可能性に気付かせる。

2 事前準備

(1) クラスの共有ドライブ……個人・クラスの学習・生活の記録を残しておく。(ジャムボードで作成した図工アルバム、かけ算九九がんばりカード、漢字ノート、お楽しみ会などの集合写真)

(2) ロイロノート……くらげチャートに個人で成長の記録を整理する。

(3) 家庭との連携……自分の成長の記録を冬休み中に、家族に動画で撮影してもらう。



3

活用

の様子

(1) 「すてきしょうかい」の準備をする。

- ・自分の伝えたい「すてき」をロイロノートのスライドに整理する。
- ・話し方の練習をする。(一人3分以内)

(2) 3人グループで順番に発表する。

- ・発表者の周りに立ち、質問や感想も交えながら発表を聞く。
- ・発表者は「すてき」が伝わるようにスライドを紹介する。

(3) 全体で考えを共有する

- ・大型テレビを使って、友達にどんな「すてき(内面の成長)」が増えてきたか、考えを共有し、自分の「すてき」をワークシートに書く

4 研究成果

・普段自分のよさになかなか気づくことが出来ない児童も、友達や家族に認められることで、自分の「すてき」を積極的に書くことが出来た。

・家庭と連携して、動画や写真で成長の記録を残すことで、主体性が高まり、その後の作品作りの際にも、何度も見返すことが出来た。



授業研究

中学年ブロック



日時 令和3年11月16日（火）6校時

授業 第4学年1組

体育「マット運動」

授業者 戎子 正晃 教諭

第4学年1組 体育科学習指導案

令和3年11月16日(火) 第6校時
 在籍児童数 30名
 場所 体育館
 指導者 教諭 戎子 正晃

1 単元名 マット運動「エビリンピック開催! ～目指せ!側転の達人～」(器械運動)

2 運動の特性

(1) 機能的特性

○新しい技ができるようになると、次の新しい技や美しい動きに挑戦しようと意欲が出てくる運動である。

○できる技や新しい技を組み合わせたたりして、楽しさを味わうことができる運動である。

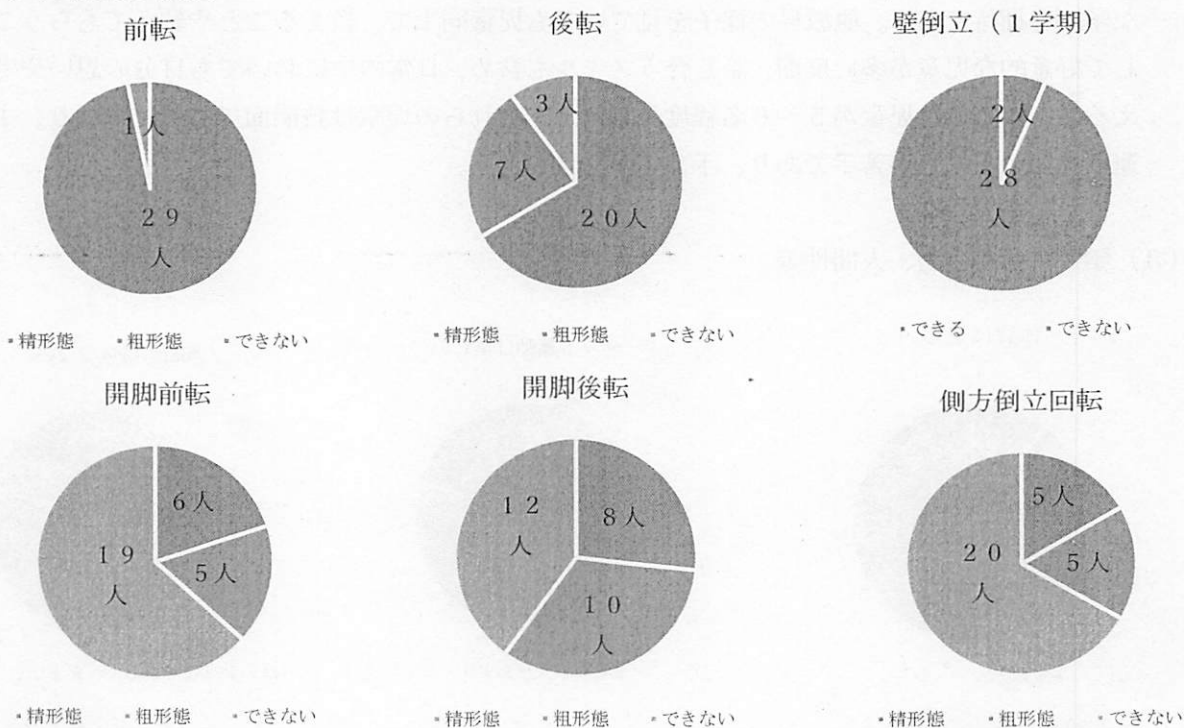
(2) 児童からみた特性

マット運動の楽しさや喜びを感じる要因	マット運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・できなかった技ができるようになったとき。 ・いろいろな技ができるようになったとき。 ・友達と協力したとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習をしても上手に技ができないとき。 ・けがをしたり、怖さを味わったりしたとき。

3 児童の実態 ※精形態・・・確かな技術としてできた動き。

粗形態・・・なんとなくできた動き。

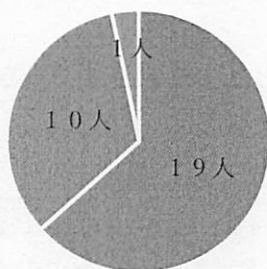
(1) 知識及び技能



本学級の児童は前年度の学習において前転・後転を中心とした指導を受けており、多くの児童が習得している。しかし、開脚前転、開脚後転、側方倒立回転は未履修ということもあり、個人差が大きく表れている。技能上位の児童は体操やダンス、チアリーディングを習っている女子が中心である。上記の技を考察すると、開脚前転は回転から開脚して起き上がる際にマットを押すことを理解していない。したがって、まだ十分にレディネスが整っている状態とはいえない。側転に関しては、手の付き方や腰角の付け方など、課題が多く見られる。また、4月当初は、壁倒立ができる児童は2名と著しく低く、1学期の鉄棒の授業からも、本学級の児童は、腕支持の力が弱いことが分かっている。

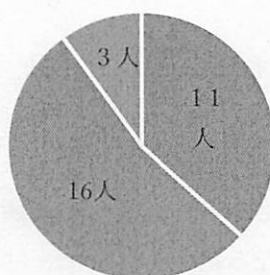
(2) 思考力・判断力・表現力等

話し合うことで解決できる。



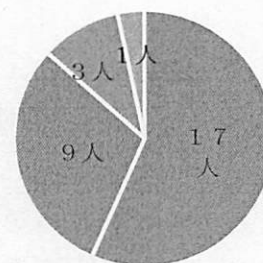
・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

体育の授業でどうしたらうまくなるか考えながら勉強している。



・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

めあてをもって活動をしている。

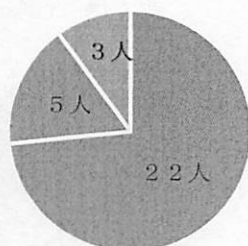


・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

通常の授業の様子やアンケートから分かるように、話し合うことで課題を解決できることを児童は実感している。体育の授業において学習の経験もあり、必要感をもっているようである。また、めあてをもったり考えたりしながら勉強している児童が大多数を占めていることから、問題解決的な学びを期待できる。他教科の様子を見ている児童同士で、教えることや教えてもらうことに対して好意的な児童が多い反面、話し合うスキルも含め、日常の中においても自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童が5～6名程度見られる。それらの児童は技能面でも低位にあり、主体的に運動に関わることが苦手であり、手立てが必要である。

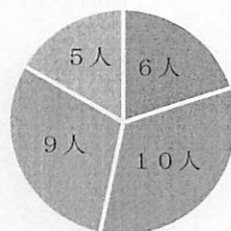
(3) 学びに向かう力、人間性等

体育は楽しい



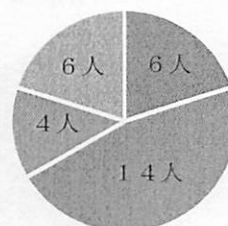
・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

マット運動は楽しい



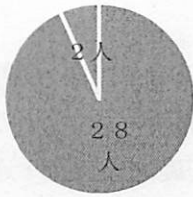
・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

運動が得意でない



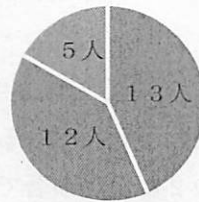
・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

約束を守っている



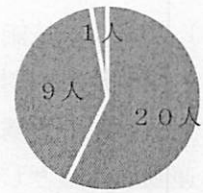
・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

進んで運動をしている。



・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

友達が励ましてくれる



・はい ・まあまあ ・あまり ・いいえ

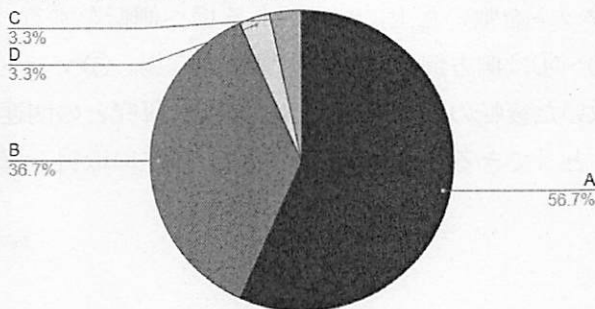
体育には好意的である反面、「運動が得意でない」と3分の1が感じており、特にマット運動に関しては約半数の児童に苦手意識がある。また、「運動が苦手だ」と答えた児童の多くが「進んで運動していない」というアンケート結果に結びついていることが見られた。運動が苦手という認識が、苦手意識を強めて主体性を低くしているようである。授業規律である約束を守ったり、友達ができたことに対しては共感的に捉える児童が多く、協働的に体育の授業に取り組んでいる。1学期の鉄棒の授業においても、相手を補助したり「できた」という喜びを自分ごとのように喜んでいる児童が多く見られた。

(4) 研究主題に関すること

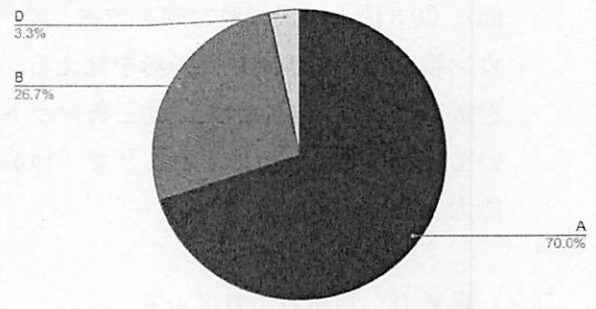
〈「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」校内アンケート（令和3年度7月実施）〉

A・あてはまる B・だいたいあてはまる C・あまりあてはまらない D・あてはまらない

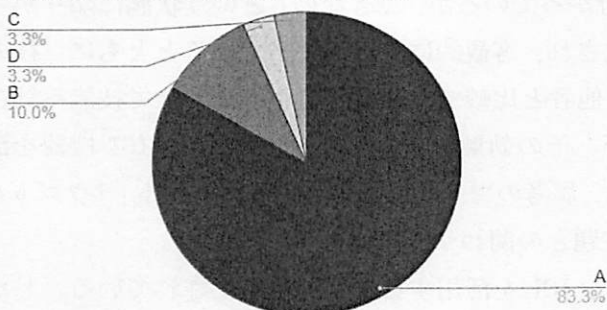
①せんせいが だしたかたいや じぶんたちで かんがえたかたいに すずんで とりくむことが できましたか。



②ともだちの かんがえや せんせいの せつめいを よくきいて がくしゅうすることが できましたか。



③じゅぎょうのなかで じぶんのかんがえが かわったり、あたらしい かんがえを みつけたりすることが できましたか。



④ク롬ブックを使った学習のできるようになったことを書きましょう。(抜粋)

- ローマ字入力
- キーボードで早く打ちこむこと
- スライドを作ること
- 調べ学習で使うこと

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

器械運動に対して苦手意識を感じている児童が学級内に4分の1いることを考慮して学級の児童の願いを基に、授業をつくりたいと考えている。また、1学期当初から本学級の児童は鉄棒運動を始めとして、学級内で技能の2極化が顕著であった。そこで基礎的な支持・逆さ感覚の習得・定着のため、準備運動に「馬跳び」「かえる足うち」等を取り入れたり、体育館体育では壁倒立に取り組んだりしてきた。

側方倒立回転のレディネスを考察した際に技能だけでなく技を構成する知識を持ち合わせていないことから、単元の見通しをもてること（反転学習）や、「これならできる」という補助を通じた技能を評価に入れるなど、技能の幅をもたせる。そして、「技ができる」という技能評価だけでなく、友達との関わりに関する事項や技能習得のための知識も評価とする。技能の細部化したスモールステップの理解と、関わり方を身に付けさせ取り組むことにする。

単元計画は基本の技である前転・後転の習得率が高いことから、発展技である開脚前転・開脚後転・側転のポイントを共有しながら、互いに補助をして知識技能・思考・主体性をバランス良く向上させていく。しかし、側方倒立回転は、示範を見ただけでは技を理解することが難しい技である。知識を獲得していくことはもちろんだが、特に器械運動は「理解していてもできない」という状態になる運動領域であることから、技能向上を図るためには技能を支える感覚運動が重要になってくる。感覚的なものと技を構成する技能を積み重ね、全ての時間を通して主となる技に適した、細分化されたステップを取り入れていく。具体的な場として、①壁倒立（片足壁倒立）。②よじのぼり逆立ちからの下り（足を開いた状態で片足ずつ下りる側方倒立回転の足の着地局面）。③3段と1段の跳び箱を並べ、エバーマットを敷いた上に高さのある場へ側転をする。④ミカン箱を使って手手足の形を覚える。※①～④は側方倒立回転の感覚を養う場。⑤マット2枚を敷いた場（大きな前転）⑥三角マットを敷いた後転の場を準備する。また、研究との関連において、ICT機器を活用することで「わかる」と「できる」とつなげ、知識・技能の取得と資質・能力を養いたい。

(2) 思考力、判断力、表現力等

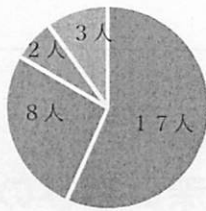
「自分の動きが分からない」という結果がアンケートに書かれていた。器械運動はアドバイスを受けても完成形のイメージと結びつきにくい。示範の映像で技のポイントなどを知識として得ることができるが、自分の動きとイメージが連動して示された技に近付けないことが、児童が苦手と感じる一つの要因である。つまり、「分かっているが、できない」という状態に陥りがちである。それでは、自分の動きが映像で可視化され、客観的に見ることができるとともに「技のポイントはどこにあるのか」と思考しながら、他者と比較できれば課題を解決できて技能へ結びつくと考える。補助も有効な手立てではあるが、その効果を加速させるためにも、ICT機器を活用して問題解決学習を深めていく。具体的には、思考のツールとして「ロイロノート」「ウゴトル」の2つを活用する。活用方法を以下、研究主題との関わりで記す。

関連して、アンケート結果にあるように、ICTを活用することが習慣化されている。しかし、体育科の授業においてその効果を感じている児童は半数であることから、効果的な活用をするこ

ICT機器を使うことになれている

ICT機器を体育で活用したことがある

ICTの効果を感じているか

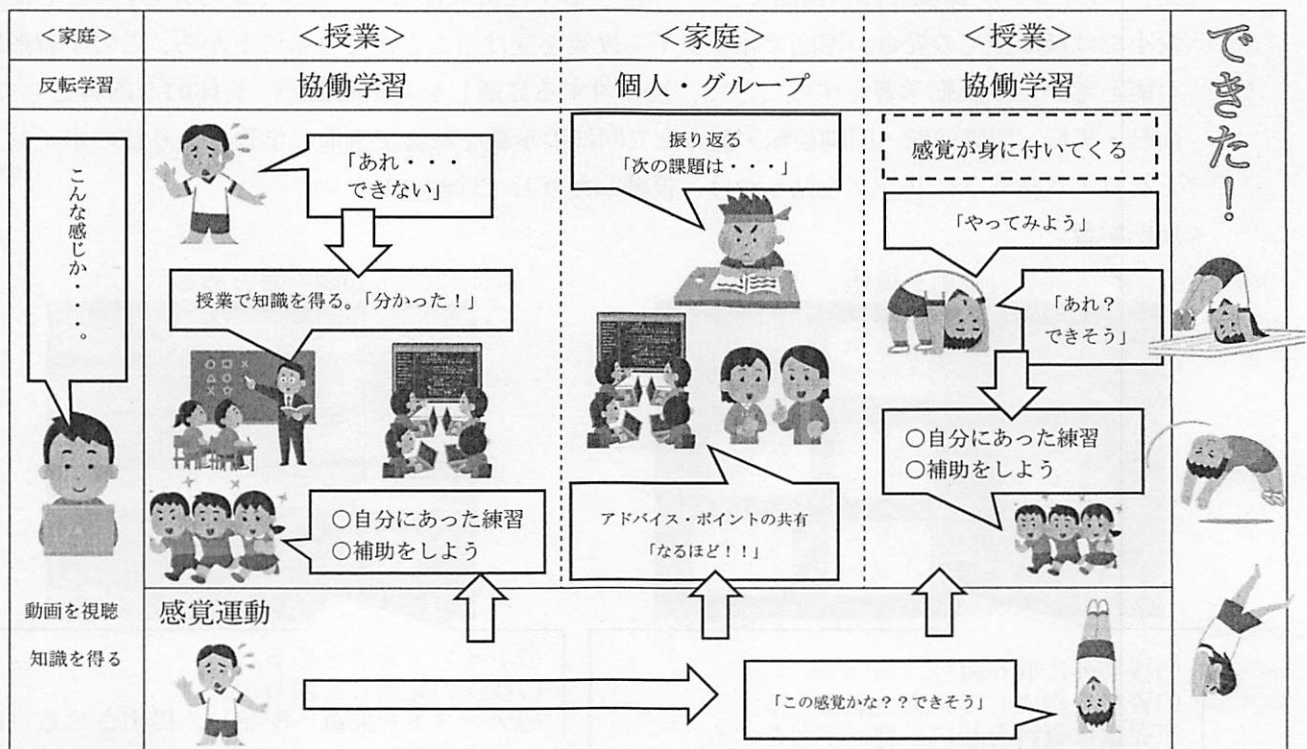


■はい ■まあまあ ■あまり ■いいえ はい ■まあまあ ■あまり ■いいえ はい ■まあまあ ■あまり ■いいえ

(3) 学びに向かう力、人間性等

本学級の児童は協働的に活動することが学びを深める効果があると感じており、仲間同士の関わりに対して好意的である。約束を守ることの大切さも理解していることがアンケートから分かっている。一方、体育に苦手意識を持つ子も少数おり、マット運動に対しては半数近くが苦手意識を持っていることも事実である。そうした苦手意識を持つ児童を含め、全ての児童が「学びに向かえる」ようにするためには「単元の見通し」をもち、「できそう」という運動有能感を感じたり、成功体験を味わったりしなければ、単元を通して教材に主体的に関わることは困難であり、学びに向かう力や人間性の高まりは望めない。そのために、学級で「全員」「やればできる」という目標を掲げ、技の共通課題を設けることで基本の技・発展の技へ全員で取り組めるようにする。また、技能面で個別最適な学びを保障しつつ、モデリングや異質集団の中で協働的に関わり合い、体育科の学びを通して共感的な人間性を育成していく。児童同士が共通の目標、互いの目標に対して粘り強く関われるようにし、クラス全体で「やれば、できる」を実現、体感させたい。

(4) 指導の過程 (図)



5 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる
— ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの研究 —

②目指す児童像

ICT を使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICT を活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、対話の必要感が生まれたりして学びが深まり、確かな学力が育まれるだろう。

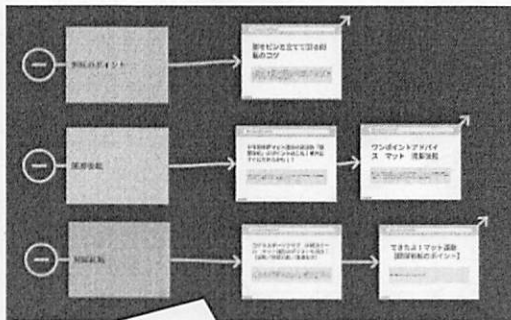
(2) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

手立て1【ICT 機器を効果的に活用した反転学習】

反転学習は授業外で動画や資料から知識をインプットし、学校での学びをアウトプットの場とする学習である。側方倒立回転を行った際、「どうしてもできないのだろう」という疑問の声が児童から上がっていた。この声を解決するためにも、予習を前提とした学びとして位置づけたい。また、反転学習を行うことで「知識を構築しやすい」「スムーズに学びを進められる」等のメリットがある反面、ネットワーク環境等の整備面で、ハード面で公平性に欠けるデメリットが考えられる。しかし、栄小ではほぼ全ての児童が家庭でオンライン授業を受けることができることから、この学習形態が可能と考えた。反転学習をすることで、技に対する見通しをもたせたい。具体的な内容としては、前転・後転・開脚前転・開脚後転・側方倒立回転の示範を映像で事前に学習したり技のポイントなどをロイロノートにリンクを貼りつけ、視聴したりして理解させたい。

<反転学習>

動画を視聴



- 授業外に取り組む。
- 資料を作成して児童へ配布する。
- ※児童は資料を基に、調べ学習をする。

知識をまとめる

開脚前転ポイント	開脚後転ポイント	側転ポイント
いきおいよく前転	おしりのつく位置を速くにする。	正面を向いておへそを前に向ける。
足をのばす	あしをのばして回る。	背中をのばして手を前につく。
両手でマットを強く押す	立つとき手でマットをおす。	チョキの足にしてける

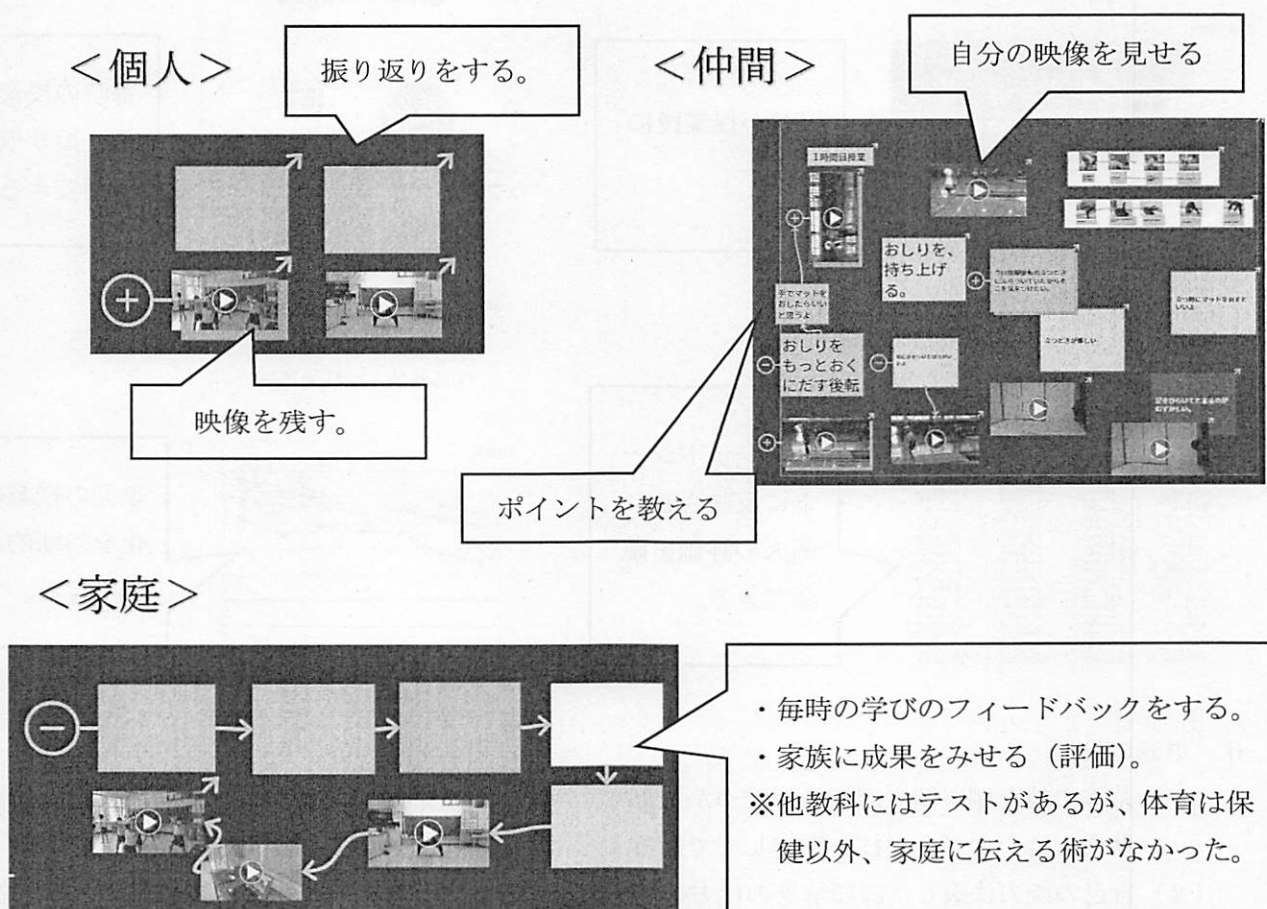
- ポイントをまとめる。
- 技への見通しを図る。
- テキストを児童へ配布し、提出させる（週末の宿題）。

手立て2【ICT を効果的に活用した問題解決学習】

ロイロノートを活用して問題解決学習に取り組む。本単元では基本の技「前転・後転・開脚前転・開脚後転」、発展技「側方倒立回転」を「全員でできるようになろう」という共通課題を設け、「全員」というキーワードを通して主体性を高め、責任感を生む。そして「できた」を全体で共感力を体験させる。それを醸成するために、授業を深めていくためのベースとして「補助」を通して「自分なりのできた」を探究していくのだが、その過程としてロイロノートを活用して対話の必要感や思考を深めていく。ロイロノートは「残す」「振り返る」という観点に重点を置いて、家庭でも学びが続くねらいがある。反面、「ウゴトル」は実際の授業で反復的に技を見直すなど、個々の目的別に使い分けることにする。以下、活用例を記す。

①ロイロノートの活用

- ・反転学習（家庭学習として知識をインプット、授業内でアウトプットする）。
- ・個人の振り返りを入力し、演技の映像を撮影して学習過程を残す。
- ・共有ノートで、家庭学習に取り組む（互いにポイントを教え合う）。
- ・学習のまとめをする（表現方法として、学びを振り返る）。



②ウゴトル・・・15秒前の映像を映すことが可能なアプリケーション。

- ・マットの近くにタブレットPCを準備し、反復的に試技した映像を確認できるようにする。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①技を安定して行うためのポイントを理解したり、コツをつかんだりできる。 ②互いの課題を理解し、補助をすることができる。 ③前転・後転・開脚前転・開脚後転・側方倒立回転が安定してすることができる。	①自己と他者の技を比較しながら、自己の課題を見つけたり、伝えたりしている。 ②課題解決に必要な場や、練習方法を選んで取り組んでいる。	①学習ルールや約束を守り、友達の考えに共感したり、助け合ったりしながら、役割を果たそうとしている。 ②マット運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。 ③器械・器具の安全に気を付けて、準備・片付けをしている。

8 単元計画

(1) 領域（器械運動）の取り上げ方

運動 / 学年	3年	4年	5年	6年
マット運動	8時間	8時間	8時間	8時間
跳び箱運動	8時間	8時間	8時間	8時間
鉄棒運動	6時間	6時間	5時間	5時間

(2) 領域の内容と目指す動き

学年	内容	目指す動き
3	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> しゃがんだ姿勢から体を丸めて前方へ回転して立ち上がったたり、後方へ回転し、両手で押して立ち上がったたりすること（前転・後転）。 しゃがんだ姿勢から後方へ回転し、足を大きく開き開脚すること（開脚後転）。
4		<ul style="list-style-type: none"> しゃがんだ姿勢から前方へ回転し、足を大きく左右に開き、両手を着いて開脚立すること（開脚前転）。 腰を伸ばした姿勢で倒立を経過し、足を大きく開き開脚立ちすること（側方倒立回転）。 壁に向かって体を振り下ろしながら両手を着き、体をまっすぐ伸ばして壁に足をもたれかけて倒立すること（壁倒立）。
5		<ul style="list-style-type: none"> 片足を振り上げ、補助倒立を行い、前に倒れながら腕を曲げ、頭を入れて前転すること（倒立前転）。 直立姿勢から後方へ倒れ、尻と両手を着き、膝を伸ばして後方へ回転し、立ち上がること（伸膝後転）。
6		<ul style="list-style-type: none"> 倒立から前方へ体を反らせ、足を下ろしながらブリッジすること（前方倒立回転）。 腰を伸ばした姿勢で倒立を経過し、倒立状態で両足を揃え、体を捻り着地すること（ロンダート）

(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 ⑦/8

時	1 主	2 思	3 技	4 技	5 思	6 思	7 ⑦	8 技	
ねらい	マット運動の授業の流れ、準備、片付けの約束を知ろう。	自分の課題を見つけよう。	お助けをしてみよう。補助方法を考えよう。	基本の技を安定してできるようにしよう。	どうしたら側転ができるのだろうか。	自らの課題に適した練習に取り組もう。	自らの課題に適した練習に取り組もう。	エビリンピック開催(技の発表会をしよう)	
指導内容	・学習の進め方 ・単元の見通し	・技の構成 ・課題把握(自分)	・技の構成 ・課題把握(班) ・補助方法	・補助の方法 ・課題に適した練習	・技の構成 ・課題の把握、練習方法	・技の確認 ・課題の把握、練習方法	・技の確認 ・課題の把握、練習方法	・技の確認 ・演技会	
学習過程	1 集合・整列・挨拶 健康観察	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 準備運動をする。 3 場の準備をする。							
	2 準備運動	2 感覚づくりの運動を行う。※サーキットで行う ①片足くまさん壁倒立 ②前転 ③坂道後転 ④手手足跳び越し ⑤跳び箱跳び越し							
	3 感覚づくり運動	3 めあての確認 基本の技について見通しをもつ。	3 めあての確認 技の構成について確認する。	3 めあての確認 技の構成について確認する。	3 めあての確認 4 基本の技に取り組む。	3 めあての確認。 技の構成について確認する。	3 めあての確認。 補助の方法や、練習の場について確認をする。	3 めあての確認。 確認。 課題に適した練習に取り組む。	
	4 用具の準備の仕方や、運動の約束を知る。	4 試技する。 ※ロイロノート	4 班で取り組む。 ※ロイロノート (映像を見て確認)	4 補助方法について確認する。	5 側方倒立回転の技能構成について話合う。 ※ロイロノート	4 課題に適した練習に取り組む。 ※ロイロノート (映像を見て確認)	4 課題に適した練習に取り組む。 ※ロイロノート	4 エビリンピックを開催する。	
	5 試しの運動を行い、自分のできる技を知る。	5 課題について話しあう。 ※ロイロノート	5 補助の方法について話し合い、補助をしてみる。	5 互いの課題を解決できる練習に取り組む(補助を含む)。 ※ロイロノート	5 互いの課題を解決できる練習に取り組む。 ※ロイロノート	5 用具の片づけをする。	5 用具の片づけをする。	5 用具の片づけをする。	
	6 用具の片付け方を知る。	6 用具の片づけをする。	6 用具の片づけをする。	6 用具の片づけをする。 ※開脚前転・開脚後転・側転の映像を残す。	6 用具の片づけをする。	6 本時のまとめと振り返りをする。	6 本時のまとめと振り返りをする。	6 本時のまとめと振り返りをする。	
	7 本時の振り返りとまとめを行う。	7 本時のまとめと振り返りをする。	7 本時のまとめと振り返りをする。	7 本時のまとめと振り返りをする。	7 本時のまとめと振り返りをする。	7 整理運動をする。	7 整理運動をする。	7 整理運動をする。	
	8 整理運動をする。	8 整理運動をする。	8 整理運動をする。	8 整理運動をする。	8 整理運動をする。	8 挨拶をする。	8 挨拶をする。	8 挨拶をする。	
	9 挨拶をする。	9 挨拶をする。	9 挨拶をする。	9 挨拶をする。	9 挨拶をする。				
評価計画	知・技	①		②	③			③	
	思・有・表		②			②	③		
	態	③	①		②		①	②	
	方法	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット	観察・ノート ・タブレット
	場面	4・6	2・5	2・5	2・5	5	4	4	4

9 本時の学習と指導 (7/8時)

(1) ねらい

自らの課題に適した練習に取り組もう。

(2) 準備

跳び箱3段・マット2枚・タブレットPC (一人一台)・ゴム紐・ミカン箱

(3) ICTを活用する学習場面

C2 協働での意見整理

ロイロノートを活用し、互いの試技や示範の技と比較しながら、課題を解決する。

(4) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○) 評価規準 (◇) 研究主題との関わり (☆)	時
つかむ	<p>1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。</p> <p>2 準備運動をする。 馬跳び・バーピー運動・カエル足うち。ブリッジ (年間を通して実施)</p> <p>3 感覚つくりの運動をする。(異質集団)</p> <p>①片足くまさん壁倒立 ②大きな前転 ③坂道後転 ④よじのぼり逆立ち下り ⑤手手足跳び越し (みかん箱) ⑥跳び箱跳び越し ※サーキットで行う</p>	<p>○素早く集合・整列できるように声かけをし、気持ちよく学習が始められるようにする。</p> <p>○本時で使う部位を重点的にほぐすようにする。</p> <p>○技能のモデルを示し、それに近づけるように声かけをする。</p> <p>○自らの課題を確認させ、各箇所が必要な感覚に近付けるように声をかける。</p> <p>○技能下位の児童へは直接的に補助や助言をする。</p> <p>○順番を守るなど、安全面に配慮して行うように声かけをする。</p>	15分
	<p>ねらいとする感覚 ①腕支持感覚・逆さ感覚 ②回転感覚 ③回転感覚・順次接触感覚 (後方) ④腕支持感覚 ⑤側転の粗形態 ⑥側転の粗形態</p> <div data-bbox="216 1375 1370 1738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>感覚運動の場の設定</p> <p style="text-align: right;">ステージ</p> </div>		
かんがえる	<p>4 本時のねらいを確認する。</p> <p>課題解決に必要な場や方法を選んで練習に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○前時までの課題について振り返らせる。</p> <p>○技の構成について振り返り、練習方法について振り返らせる。</p> <p>○技の構成や、つまずきに対しての練習方法を提</p>	5分

	<p>5 課題とそれに向けた練習方法について互いに話し合う。</p>	<p>示する（既習を振り返り選択させる）。 ☆ロイロノートを活用してグループで各自の課題について話し合い、自らの課題に適した練習方法を互いに理解させる。</p>												
<p>あらわす</p>	<p>6 自分の課題に適した方法を選び、基本の技・側方倒立回転ができるように練習に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><側転の技能系統></p> <p>①よじ登りやかえる足打ち</p> <p>②手をついた川わたり</p> <p>③少し高い位置からの川わたり</p> <p>④手・足・足の川わたり</p> <p>⑤足が少々曲がっても腰があがった川わたり</p> <p>⑥大の字のように体が横に向いた姿勢からの側転</p> <p>⑦正面からの側転 足曲がり</p> <p>⑧正面からの側転 足が伸びている</p> <p>⑨正面からの側転 足が伸びている 前足つま先・手・前つま先が一直線の側転</p> <p>※本教材は、⑤～⑨の感覚を中心に取り組んでいる。</p> </div> <p>※1・2班、3・4班、5・6班は兄弟班としている（補助やポイントの共有をするため）。</p> <p>※特訓コーナーは、腰角のつけかたや腕支持の問題など、基礎感覚が身に付いていない児童の活動場所。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>展開の場の設定 ※感覚づくりの運動の際にも設置しています。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・マット2枚 ・跳び箱3段 ・ロイター板 ・ゴム紐 ・ミカン箱 </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%; text-align: center;">1班</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%; text-align: center;">4班</td> <td rowspan="3" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 10%;">特訓</td> <td rowspan="3" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 10%;">ステージ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2班</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">5班</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">3班</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">6班</td> </tr> </table> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・マット2枚 ・跳び箱3段 ・ロイター板 ・ゴム紐 ・ミカン箱 	1班	4班	特訓	ステージ		2班	5班		3班	6班	<p>○課題がある児童は、補助をしながら技に取り組みさせる。</p> <p>○技能低位の児童は、積極的に教師が関わり指導をする。</p> <p>☆ウゴトルを活用し、反復的に試技をする中で自らの動作を確認させる。</p> <p>☆ロイロノートを活用し、互いの試技や示範の技と比較しながら、課題を解決する方法に取り組ませる。</p> <p>☆側転の出来栄を互いに撮影させる。</p> <p>○積極的に仲間の練習に関わっている児童を称賛し、共感モデリングをする。</p> <p>○技能モデリングをし、技のポイントを意識させる。</p> <p>○技能下位の児童で上達が見られる児童をモデリングし、共感力を高める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇課題解決に必要な場や、練習方法を選んで取り組んでいる。</p> <p style="text-align: center;">(観察・タブレット型PC)【思考・判断・表現】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><「腕が当たる」様(C)への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップを活用し、課題の把握をさせる。教師が関わり、練習に取り組む。 ◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿 ・自分課題に適した場を選ぶだけでなく、グループの仲間の課題に適した場を選ぶことができる。 </div>	<p>20分</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・マット2枚 ・跳び箱3段 ・ロイター板 ・ゴム紐 ・ミカン箱 	1班	4班	特訓	ステージ										
	2班	5班												
	3班	6班												
<p>ふりかえる</p>	<p>7 用具の片付けをする。</p> <p>8 体育ノートに振り返りを記入する。</p> <p>9 本時のまとめをする。</p> <p>10 整理運動をする。</p> <p>11 挨拶をする。</p>	<p>○安全に気を付けながら、素早く行わせる。</p> <p>○今日の感想を、記憶に残ったことを記録させ、ロイロノートへの書き込むためのメモをする。</p> <p>○ねらいに沿った振り返りをしている児童の考えを取り上げて称賛する。</p> <p>○本時で使った体の部位をゆっくりとした動作で伸ばすように声かけをする。</p> <p>○授業後の手洗いの消毒を確認する。</p>	<p>5分</p>											

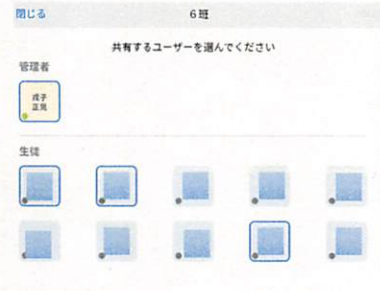
ロイロノートを活用した、体育科における個別最適化された学びの実践

1 ロイロノート活用のねらい

ロイロノートを活用し、児童1人1人に個別最適化された学びを保障するとともに、学校と家庭を繋ぎ、協働的で深い学びを実現させること。

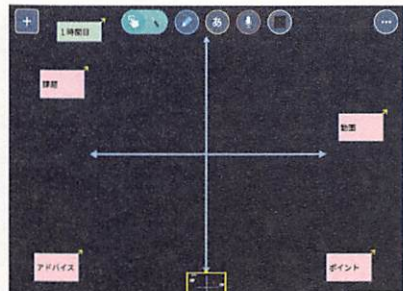
2 事前準備

(1) ロイロノートで共有ノートの班を作成 (2) 共有ノート内のひな形作成



①共有ノートを作成。

②班員を選び、グループをつくる。



①シンキングツールを基に、テキストを内部につくる(話合う内容を決めておく)。

③班長へ送り、共有ノートへ貼り付けさせる。

3 活用の様子

(1) 授業記録(映像を含む) ※個人の振り返りを含む



⇒



個々の振り返りに動画を撮影し残す。

⇓


ポートフォリオ評価・学びの軌跡

(2) 家庭で互いにアドバイスを(宿題)。

自らの動画を貼り付け

友達と比較する

手本を見る
(教師が提示した資料)
多様な情報収集
(自分で調べる)



必要感のある質問

- 互いにアドバイス
- 技能ポイント
- 共感的意見

4 研究成果

本研究を説明した上でアンケートを実施した<①はい ②まあまあ ③あまり ④いいえ>。

○共有ノートの効果…①89% ②11% ③40% (家庭での宿題として課した)

○動画撮影の効果…①100% (授業内での協働学習に活用)

○アドバイスの効果…①SNSの効果:65% ②どちらも:28% ③授業7%

今回の実践を通して、共有ノートの活用(学校と家庭で学びを深める)は、協働的で深い学びに繋がると感じた。理由として、SNS上での児童の質問は、必要感があるものであり、それに対して仲間の肯定的な言葉がけや動画の比較を通したアドバイスは、児童にとって、「うれしい」と感じたようである。授業では話すことが苦手な児童も共有ノート上では活発に、生き生きと活動していた。

研究報告

高学年ブロック



「オンライン授業の成果と課題」

日時 令和3年10月4日（月）

報告者 中本 壮亮 教諭

※コロナ禍による分散授業実施のため、研究授業は中止

オンライン授業の成果と課題

令和3年10月4日
高学年ブロック

1 本校におけるオンライン授業の経緯

期日	内容
【令和2年度】	○児童1人1台のChromebookを配置 ○校内LANの整備 ○家庭でのICT環境に関する調査 ○Chromebookのお試し持ち帰り（4～6年）
【令和3年度】 令和3年5月14日～	○Chromebookの持ち帰り・Qubenaによる宿題（6年）
5月25日	○オンライン授業【1校時】（6年のみ、試験的実施）
6月10日	○オンライン授業【1校時】（2～6年）
7月8日	○オンライン授業【1校時】（全学年）
7月29日	○オンラインによる林間学校事前学習（5年）
8月25日	○オンライン学活（6年、修学旅行前の健康観察）
9月1日～3日	○オンライン授業【5校時】（全学年）
9月6日～17日	○OMO型授業（全学年）
9月21日～30日	○オンライン授業【5校時】（全学年）

2 本校におけるOMO型授業の実際

(1) 概要

- ①各クラス、児童を半分ずつの2グループに分ける。
- ②一方が学校で授業を受けている間、その様子をオンラインでつなぎ、もう一方は家庭で受ける。
- ③給食は全員同じ時間で教室に集まる。

(2) 時程【9月6日の例】

時間	A	B
1	学校	オンライン
2	学校	オンライン
3①	学校	登校
3②	下校	学校
4	オンライン	学校
5	オンライン	学校

(3) 機器の使用事例

①ウェブカメラを付けた教室のパソコンで meet に入る

- 準備が簡単にできる。
- デジタル教科書が使いにくい。
- 画面共有をすると、児童の様子が見えなくなってしまう。しっかり児童が授業を受けているかを確認できないので不安になる。



②対面授業をしている児童から Chromebook を借りて meet に入る

- 教室のパソコンをデジタル教科書用に使える。
- 画面共有をしながら、児童の様子を見ることができる。
- Jamboard など、児童が Chromebook を使う授業では借りることが難しい。



③担任が職員室で使うパソコンを教室に持っていき、meet に入る

- 画面共有をしながら、児童の様子を見ることができる。
- 音声をテレビから出すことで、オンラインの児童もいっしょに授業を受けているという雰囲気を作れる。
- 毎朝の準備が大変。職員室と教室との wifi 切替が面倒。
- 担任の ID で 2 つ meet に入るので、ハウリングをしないように音量調節する必要がある。



(4) 成果と課題

①成果

- 3密の回避と給食の継続を両立することができた。
- 対面のみの分散授業と違い、同じ授業を2回行うことがなく、その部分での疲労感がなかった。
- 学年によっては部分的に教科担任制を導入し、教師の負担軽減が図れた。
- 1学期に体験的なオンライン授業を実施していたため、高学年はスムーズにmeetで授業を受けられた。
- 授業で動画を見て学習する際、オンラインの児童は目の前の画面で見ることができ、全員が学校にいるより動画を見やすい環境が作れた。

②課題

- 普段の授業準備に加え、オンラインで受ける児童が分かりやすいような教材準備をしている教師もあり、準備に時間を要した。
- 低学年はオンラインで授業を受けるだけで精いっぱいであり、保護者から「つながらない」「声が聞こえない」等の要望が多く寄せられた。
- 1人の児童が誤って複数meetに入ってしまう、ハウリングが起きてしまうことがあった。その際、低学年であると自分でタブを消すことができず、授業の停滞につながった。
- 高速wifiの導入で、校内共有フォルダを見る時にwifi切替が必要になった。そのため、オンライン授業を行っている時間には、フォルダに入れた資料やedumall経由のデジタル教科書が見られなくなった。
- 学校でも配慮が必要な児童がオンラインで受けているときの支援に苦慮した。
(別のmeetに移動することができない、マイクをオフにしないなど)

3 オンライン授業の工夫

(1) 6年1組・道徳の例

①方法

事前にパワーポイントで板書を作成する。当日はmeetの画面共有で映し出す。児童が発言するところはテキストボックスだけ作っておき、発言後に打ち込む。



②成果と課題

- 普段、黒板に書いて行っている授業と大差なく実施することができた。
- 全員オンラインでも、OMO型でも、どちらの授業でも活用できた。
- 通信環境が悪い時が多いので、黒板に書いたものをmeetに映すよりも、児童は見やすいという感想をもっていた。
- 画面共有中は児童の様子が見えず、しっかり授業を受けているか確認ができなかった。挙手も誰がしているか分からないので、ランダムに指名をした。
- 教材準備に時間がかかった。

(2) 5年2組・国語(物語文)の例

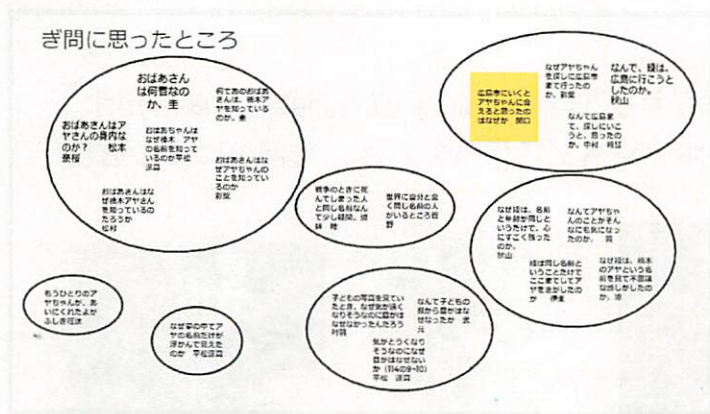
①方法

Jamboardで、印象に残ったところ・疑問に思ったところ・みんなで話し合いたいところの3ページを作成し、初発の感想を書きこませる。

全員でJamboardを見ながら、似ている意見を囲むなど、どのような意見が出ているか整理する。

②成果と課題

- OMO型でも、全員がJamboardで意見交流するので、一体感があった。
- 普段の授業では恥ずかしがって挙手ができない児童も、意見を書き込むことでハードルが下がり、考えを述べることができた。
- 児童がそれぞれの意見を書き込むため、同じ意見が画面上にいくつも点在することがあった。
- ネットワーク上の問題で、全員(24人)がJamboardに入るまでに時間がかかることがあった。(入ってからはスムーズだった)



本年度の研究 成果と課題

1 成果

- ロイロノートを使って、写真やビデオを撮ることが出来るようになった。
- 実際に撮ってきた写真や動画を使用することで、意欲的に取り組む事ができた。
- 1年間を通して、個人・クラスの学習・生活の記録を残しておくことで、振り返る際の手掛かりとすることができた。(ジャムボードで作成した図工アルバム、かけ算九九がんばりカード、漢字ノート、お楽しみ会の集合写真など)
- ロイロノートのクラゲチャートなど、シンキングツールを使うことで、自分の考えを整理することができた。
- ロイロノートの提出箱を活用し、考えを共有することができた。
- 体育では、自分の動きを遅延再生アプリやロイロノートで撮影することで、客観的視点で見ることが容易になった。
- ロイロノートの資料箱を利用することで、体育のお手本動画や、図工のやり方の説明などを、児童が必要なときにいつでも見られるようになった。
- ノートや作品の共有が簡単にできるようになり、考えを広げたり、深めたりすることができるようになった。
- ICT を活用して意見を提出させたり、共有させたりすることで、話す事が苦手な児童も意見を発表することができた。

2 課題

- 家庭で写真や動画を撮ってもらうような課題に関しては、課題の意図を保護者に丁寧に説明することが必要である。
- 図工の作品など、動画や写真として残しているが、来年度どうなるのか、ジャムボードの図工アルバムも印刷するには一人当たり10ページほどになっているため、どうすべきか、など年度の入替えの際のデータの扱いがはっきりしていない。
- 便利になっている反面、使用の際のルール(栄小 GIGA 宣言など)の徹底や、ネットリテラシーの育成が必要である。
- キュビナの活用について、各教科で「いつ」「どのように」取り組ませるかが具体的にない。
- 新年度を迎えるにあたって、前年度で、児童がどの程度 ICT を使用できるようになったかを引き継げるとよい。

おわりに

ご指導いただいた先生

十文字学園女子大学

安達 一寿 教授

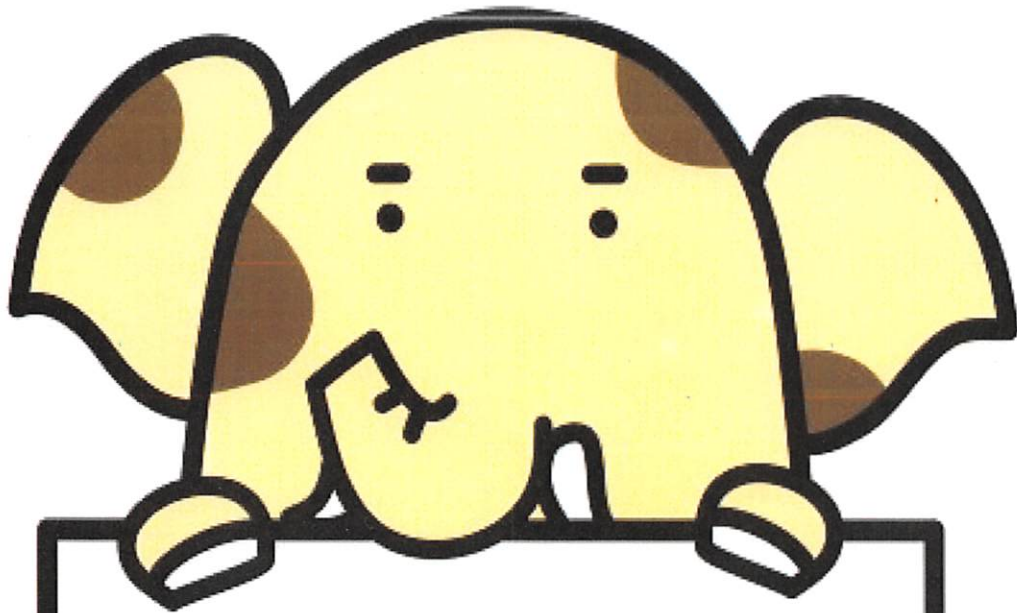
研究に携わった教職員

【令和3年度】

校長	浅田 敦子	教頭	八代 剛	教務主任	☆野末 淳
1年	原田 由枝	1年	☆村田 聡子	2年	☆須田 桃
2年	小山 文好	3年	山村 鮎子	3年	☆黒瀧 勇介
4年	戎子 正晃	4年	☆花岡 あゆみ	5年	齋藤 紗也加
5年	☆來嶋 真孝	6年	◎中本 壮亮	6年	齋藤 敦子
メイプル	☆清野 里奈	メイプル	横塚 幸葉	理科専科	☆杉山 晴生
音楽専科	朝木 裕美	養護教諭	渡邊 未来	事務主幹	林 修一郎
市事務	加藤由香里	栄養職員	堀 絵美子	福祉教員	平井 資子
英会話講師	佐藤 利恵	英会話講師	茂木 サラ	図書整理員	寺島 加代子
子ども支援員	茂木 さち	PC指導員	高田 夏恵	スクールサポート スタッフ	吉永 莉那
◎研究推進委員長		☆研究推進委員			

【令和2年度】

影山 葉子	川瀬 亜美	中根 悠太
田辺みどり	上田 路子	



「自分が好き、みんなが好き」
栄小は、一人一人の自己有用感
を大切に育成する学校です。